千葉畜セ研報１：63

鶏用混合油性アジュバンド加不活化ワクチン接種が鶏に及ぼす影響

村野多可子

Influence of Injection of Combined Oil-adjuvanted Killed Vaccines Chikens

Takako MURANO

目　　的

油性アジュバント加不活化ワクチン（OEV）は１回の接種で長期にわたり免疫が持続する反面、接種反応は強く、鶏の生産性に与える影響が危惧されている。また用量用法とは異なった使用法による事故の報告例もあるため、今回市販されている５種混合OEV接種や、用量用法とは異なるOEV使用方法が鶏の生産性に及ぼす影響を調査するとともに抗体価についても検討した。

材料と方法

76日齢の白玉卵産出鶏の100羽を用い、25羽ずつ４区に分けた。供試ワクチンは産卵低下症候群－1976（EDS）OEV、ニューカッスル病（ND）・伝染性気管支炎２価・伝染性コリーザ（IC・A・C型）の混合（NBBAC）OEVとNBBACアルミニウムゲルアジュバントワクチン（KV）、マイコプラズマ感染症（MG）OEVであった。１区はEDSOEV、NBBACOEV、MGOEVを、２区はEDSOEV、NBBACKV、MGOEVを用量用法通りに接種した。３区は１区に、４区は２区に使用したワクチン全てを混合し、脚部筋肉内に接種した。増体量と飼料摂取量は76日齢から126日齢まで毎週、以後、調査終了の448日齢まで月１回、産卵率は127日齢から調査終了まで調査した。また臨床症状、接種後４週の注射部位の観察を実施した。抗体価は各区10羽について、83日齢から125日齢までは隔週、以後月１回追跡調査した。

成　　績

増体量・飼料摂取量：接種後１週間の増体量は３区が明らかに劣った。また飼料摂取量・飼料要求率とも３区が劣る傾向にあった。産卵率：３区の産卵の立ち上がりが悪く、ピークも残りの区に比べると低く、調査期間を通しての産卵率は劣った。４区も３区より良かったものの１区や２区と比べると劣る傾向にあった。臨床症状：３区の鶏では接種翌日でも、20％が座ったままの状態で、成鶏移動時にもそれらは跛行を呈していた。注射部位の観察：OEV接種鶏では接種部位にオイルシストが観察されたが、その程度は３区が重度であった。抗体価の推移：NDの抗体の持続性は３区が優れていた。EDSの抗体価は１区と４区が調査後半において、残りの区より明らかに高かった。IC-Aの抗体価は２区と３区が、IC-Cは３区が、MGは２区と４区が高い値で推移した。

ま　と　め

用量用法通り接種したOEVによる生産性への影響は見られなかった。しかし、用量用法と異なる接種方法は鶏の生産性を阻害し、大きな経済的損失を招くことが明かとなった。

（鶏病研究会報、第36巻、145－149、2000）

平成13年８月31日受付